学校番号	１０３

令和２年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校　改訂版　倫理」　（第一学習社）						
副教材等	「最新　倫理資料集　新版二訂」　（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

自らの人生や現代の社会における諸課題について、身近なテーマを切り口に各人が主体的に考えることを重視したい。人間としての在り方・生き方を探求し、思索を深めるための手助けとして、先哲の思想を学んでほしい。学習を通して、他者とともに生きる主体としての自己を確立し、自らを陶冶し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につけてほしい。

授業内容を足がかりに、自主的に調べ、考察するなど、発展的な学習活動を期待したい。

２　学習の到達目標

・人間尊重の精神と生命への畏敬の念に基づき、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
・先哲の思想を身近な具体的事象に引き寄せながら理解し、人格の形成に努める実践的意欲を高める。
・他者とともに生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を培う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	C: 資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める。実践的意欲を持つとともに、関連する諸課題を探求する態度を身につけ、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見出し、人間の存在や価値などについて多面的･多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や、人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して活用し、レポートや図表にまとめる。	自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、先哲の思想や現代の諸課題を探求することを通して、生きる主体としての自己確立の課題を理解し、人格の形成に資する知識として身につけている。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・レポート ・発表内容 ・定期考査	・提出課題 ・レポート ・発表内容 ・定期考査	・発問評価 ・提出課題 ・定期考査 ・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	青年期の課題と自己形成	①　よく生きることを求めて ②　青年期の課題	○ ○	○ ○		○ ○	bd:人間の特質について理解している。 abd:青年期の心身の発達の特徴を把握するとともに、青年期の心理的特徴に気づいている。 bd:青年期の意義と課題について理解している。 abd:生きることの意味について様々な視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	人間としての自覚	①　ギリシャの思想 ②　キリスト教 ③　イスラーム ④　仏教 ⑤　中国の思想 ⑥　芸術と私たちの生き方	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○ ○ 	abd:古代ギリシャや中国の思想家のものの見方考え方や、各宗教の説く教えを理解することにより、それらが現代の私たちにとってどのような意味を持つのか考えることができる。 abc:世界で起こっている宗教を原因とする争いについて調べ、宗教の持つ意味とその機能を意欲的に考察できる。 bc:哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方や人間観の特徴を手がかりに、自らの生き方を学ぶことができる。 bd:それぞれの宗教や思想家の思想を対比させながら、その背景にある歴史や文化、自然観や死生観などを客観的に考察し、その特徴を多角的、多面的にとらえることができる。 bd:西洋と東洋の源流にある思想を比較して、その共通点や相違点についてまとめることができる。 bd:芸術の持つ価値と目的についてその意味を理解し、日常生活に反映させることができる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査

2学期	国際社会に生きる日本人としての自覚	① 日本の風土と伝統 ② 外来思想の受容 ③ 町人意識のめざめと庶民思想 ④ 西洋思想との出会い ⑤ 世界に生きる日本人と伝統	○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	bd:日本人の精神的特性が日本の風土とどのように関連しているのかを調べ、考察できる。 bd:仏教や儒教の伝来やその変容の流れを把握し、それらが日本の思想や文化にどのような影響を及ぼしているかをまとめることができる。 abd:日本人の伝統的な価値意識や、現代につながる庶民思想について興味関心を持ち、その特徴について理解することができる。 acd:日本人のものの見方、考え方の中で、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて、資料を収集し、まとめることができる。 ad:国際社会に生きる人間としての在り方、生き方について考える意欲を高め、自らの今後の生き方について考察できる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・発表内容
	現代に生きる人間の倫理	① 人間の尊厳 ② 近代科学革命と自然観 ③ 自由で平等な社会の実現 ④ 人間性の回復と主体性の確立 ⑤ 現代の思想と人間像 ⑥ 生命への畏敬と社会参加	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	bd:人間の尊厳に関わる先哲の思索を通して、現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義や自らの生き方について考えることができる。 ab:近代科学誕生の歴史的背景について把握し、科学技術の発達と自然との共生について興味、関心を持つことができる。 acd:略伝や図版を活用して思想家の人生をたどりながら、思想内容を理解できる。 bd:それぞれの思想家の思想の特徴を理解し、考え方の違いや共通点について考えることができる。 bd:現代の思想は過去の思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているのかを考察できる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・発表内容

3学期	現代の諸課題と倫理	① 生命の問題と倫理課題 ② 環境の問題と倫理課題 ③ 家族・地域社会と倫理課題 ④ 情報社会と倫理課題 ⑤ 宗教・文化と倫理課題 ⑥ 国際平和と人類の福祉	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○	ab:生命倫理に関する様々なテーマから探求したい課題を見出し、多面的、多角的に考察することができる。 abc:身近な環境問題について調べ、資源、エネルギー問題や環境倫理の考え方について考察することができる。 bc:家族や地域社会の変容とそれに伴う問題事例について調べ、それらのあり方や期待される役割について考察できる。 c:情報化の進展に伴う問題事例を収集し、情報モラルやメディアリテラシーなど情報社会を生きていくために必要な力を獲得できる。 bd:現代社会における諸課題について、多面的、多角的に考察するとともに、広い視野に立って、主体的かつ公正に判断できる。 bc:探求した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現できる。 abd:多文化共生の観点から、グローバル社会における異文化理解に必要な取り組みについて考察し、その倫理的課題について、広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。 bd:経済格差の解消や自立支援、人権保障や核兵器廃絶、地域紛争や民族紛争に伴う難民問題など、人類全体の福祉に関する問題事例について調べ、人類全体の福祉実現や、地球市民としての生き方を探求できる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査 ・レポート

※表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
c：資料活用の技能　　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。